

女教師

玲奈二十五歳

第二卷 保護者の前で

恥辱のヌードポーズ

海老沢 薫 著

内 容

- 著作権について
- ま え が き
- 第一章 謹 慎 明 け で 登 校 す る 女 教 師
- 第二章 モ ン ス タ ー ペ ア レ ン ツ か ら の 電 話
- 第三章 生 徒 か ら 土 下 座 を 強 要 さ れ る 教 師
- 海 老 沢 薫 B L O G
- 海 老 沢 薫 W e b 連 載 小 説

■ 著作権について

「女教師 玲奈二十五歳 第二巻 保護者の

前で恥辱のヌードポーズ」(以下本書と表記

する)の著作権は「海老沢薫」にあります。

・本書のすべての内容は、日本の著作権法、
及び国際条約によつて保護されています。

・「海老沢薫」が事前に書面をもつて許可し

た場合を除き、本書の一部、または全部を、

あらゆるデータ蓄積手段(印刷物、電子ファ

イル、ビデオ、テープレコーダー)により複

製、流用、転載、転売することを固く禁じま

す。

・著作権の侵害につきましては、著作権法第

61条などの罰則がありますのでご注意ください

い。

■ まえがき

運動会で教師としてあるまじき醜態を晒してしまった玲奈は、一週間の自宅謹慎処分を受ける事になった。

玲奈にとっては思いがけないハプニングが重なり巻きこまれてしまった不運な出来事であつたが、その心に残した傷はあまりに大きかつた。

謹慎が明け登校する美人女教師の姿を、生徒達も同僚の教職員達も意味深な顔で見つめ美人女教師の安らげる場所などもう学校の何処にもなく、玲奈は教師を辞めることさえ考えるようになっていた。

そんな時、玲奈の受け持つクラスのある女子生徒の母親から学校に電話があり、玲奈はその女子生徒の自宅を訪問することになる。

彼女は運動会が終わってからずっと学校を休んでおり、自宅に訪れた担任の玲奈の前で学校を辞めたいと言ひ出し、その理由は玲奈にとつて驚愕すべき内容であつた。

女子生徒を立ち直らせるために、玲奈は彼女とその母親の前で教師として、そして一人の女性としてのプライドさえも投げ捨てなければならぬ、どうしようもない窮地に立たされる。

■ 第一章 謹慎明けで登校する女教師

玲奈が高校の運動会で前代未聞の醜態を晒してから一週間が過ぎようとしていた。運動会が行われている白昼のグラウンドで不可抗

力によるものとはいえ丸裸で絶頂を果たしてしまった玲奈は、学内の風紀を著しく乱した

として、その後一週間の自宅謹慎を命じられたのだった。

謹慎期間中、一人暮らしの自宅に引きこも

っていた玲奈は、運動会で起きた悪夢のよう

な出来事を何度も思い出し、自己嫌悪に陥る

と同時になぜか体中が疼き、勝手に火照りだ

す体を自身の手で慰める毎日だった。

幾つものおもいがけない出来事が重なり、

クラス対抗リレーでは自ラを脱ぎ捨てグ

ラウンドを全力疾走し、その後の騎馬戦では

パンティ一枚の恰好で入場行進した後、相手

クラスの女子生徒達に狙われてパンティまで

引き千切られ、全身を弄ばれた。そして、大勢のギャラリーが見ている前で絶頂を迎えてしまった後のことはもう覚えてはいなかった。気付いた時には保健室のベッドに全裸で横たわり、傍らには、すべての発端となった玲奈のクラス的女子生徒の小原がいたのだ。

謹慎期間を終えて学校へ向かう玲奈は暗い表情を浮かべていた。あんな恥ずかしい姿を目撃された生徒達や同僚の教職員達にどんな顔して接すれば良いのか、まるで分からなかった。幼い頃から懂れてなった教師という仕事だった。玲奈はいつそ教師さえも辞めた事だ。玲奈はいい始めていたのだ。

「おはようございます」

高校に近づく、登校中の生徒達から次々と声を掛けられたが、皆、その顔には意味深な笑みを浮かべ、一週間前にグラウンド上で目撃した美人女教師の裸を思い浮かべながら露骨な視線を玲奈の体に向けてきた。

あぁっ、お願い、そんな厭らしい目で私の
事を見ないで・・・。玲奈は居たたまれない
気持ちになりながら校舎内へ入ると、廊下で
すれ違う生徒達からも露骨な視線を投げ掛け
られ、彼らが先日の運動会で玲奈が晒した痴
態について噂している声が聞こえてくるのだ
った。
「おはようございます・・。」
生徒達の露骨な視線から逃れるように職員室
に入った玲奈は、同僚の教職員達に小さな声
で挨拶をした。
「秋山先生、おはよう」
先輩の男性教師達は、一週間ぶりに登校した
美人女教師に明るく挨拶してくれたが、その
顔には生徒達と同じように厭らしい笑みを浮
かべており、玲奈の裸を服の上から透視でも
するかのようなギラギラした視線を向けてき
た。
一方、先輩の女性教師達は玲奈が挨拶をし
ても誰一人として挨拶を返すことなく、玲奈

を汚いものでも見るかのような目で睨み、完全無視するのだった。

みんな、私のことを露出狂の淫乱教師だと思っ
てているんだわ。玲奈は校内の至る所で好奇と軽蔑の入り混じった視線を向けられ、まるで目で姦されているかのような錯覚を覚える下半身を熱くさせた。

ホームルームの行われる教室に入ると、玲奈のクラスの生徒達は、一週間ぶりに会う担任教師を明るい笑顔で迎えた。

「先生、久しぶりい！」

「元気にしてた？」

「みんな心配してたんですよ」

生徒達から次々と優しい言葉を掛けられた玲奈は、あまりに予想外の反応に困惑した。

「先生、こないだの運動会のこととは私達もう
気にしてませんから。これから一緒に楽し
くこのクラスを盛り上げていきましょ」

クラス委員の中沢がそう言うのと、教室中から拍手が湧き起こり、教壇に立つ玲奈は感動の

あまり思わず目頭を熱くさせた。
みんな、ありがとう。こんな私の事を担任
として受け入れてくれるのね・・・。玲奈は
運動会で散々クラス全員の足を引っ張り、挙
句の果てに教師としてあるまじき醜態を晒し
クラスの生徒達にも恥を掻かせてしまったに
も関わらず、温かい拍手を送ってくれる生徒
達に対し深々と頭を下げた。
しかし、玲奈が教壇で頭を下げている時、
生徒達は拍手を送りながらも、皆、いつしか
意味深な笑みを浮かべ、互いに顔を見合せな
がら新たな企みを抱いている事を、哀れな担
任教師は気づいていなかった。

■ 第二章 モンスターペアレックスからの電話

玲奈が謹慎生活を終えてから数日後、職員室に玲奈のクラスの外山美佳という女子生徒の母親から電話が掛つて来たのだった。玲奈が電話に出ると、美佳の母親は物凄い勢いで怒鳴りちらし、先生に話があるから今日学校が終わつてから自分の家に来るようにと一方的に喋り、電話を切つたのだった。

玲奈は、担任になつてから初めて生徒の親から激昂され、衝撃のあまり暫し職員室の机の前で固まつてしまつた。外山美佳という生徒は、運動会が終つた翌日からずっと学校を休んでいたが、玲奈自身も一週間の謹慎生活を余儀なくされていたため、彼女のこととはほとんど気に留めておらず、謹慎生活が終わつて登校するようになってからも自分のこととで精一杯で、正直、一週間以上も欠席していい生徒のことを気にする余裕もなかったのだ。

しかし、電話口で激昂する母親の様子からして、美佳に何かが起きているのだと直感し担任教師として、しっかり生徒に向き合っていていなかったことを玲奈は心から反省した。夕方、学校を早めに出た玲奈は、美佳の家へと急いで向かった。一体、彼女の身に何が起きているのか、担任として心配で仕方なかった。彼女がクラスの中でも明るい性格の生徒で、いつもクラスメートと楽しそうに喋っていた。彼女が印象しかなかった。そんな彼女が一週間以上も学校を休んでいることは、何かしら間の大きな問題が彼女の身に起きているのは間違いない、玲奈は彼女の家に向かう途中、その理由について思いを巡らせた。クラス内でイジメが起きているのか、家庭内で複雑な問題が発生しているのか、あるいは彼女に健康上の問題が生じたのか、玲奈はあらゆる可能性を想定しながら、彼女の母親と話すべく、心の中を整理していた。

外山の家に着くと、玄関には母親が現れた。

いかにも気の強そうな、それで神経質な雰
囲気を漂わせた母親は、初対面の玲奈をいき
なり厳しい表情で睨みつけると家の中へと案
内した。
「美佳さんの担任をしている秋山玲奈と申し
ます。どうぞ宜しくお願いいたします」
玲奈は改めて母親の前で挨拶をした。
「あなたの噂は、ママ友から聞かされており
ますわ。私、こないだの運動会には見学に行
けなかったんですけど、アナタとんでもない
破廉恥な姿を晒したそうじゃありませんか」
美佳の母親は、ソファで玲奈と向き合うなり
いきなり鋭いツツコミを入れてきた。
「そ、それは・・・」
玲奈は先日 of 運動会での悪夢のような出来事
を思い出し、なんと返事すれば良いか分から
ず黙り込んでしまった。
「おかげでウチの美佳も、運動会が終わって
からすっかり気が滅入ってしまったのか、あ
んなドスケベな先生のいる学校には行きたく

ないって言いだして、ずっと家に籠っている
んですよ！」
美佳の母親は厳しい口調で玲奈を責めた。
「えっ、私のせいですか・・・」
母親の言葉を聞いた玲奈は動揺した。クラス
の女子生徒が不登校な理由は、イジメでも家
庭内の問題でも、健康上の理由でもなく、担
任である自分が晒した運動会での痴態が原因
であるとか分かれるとショックを隠しきれなかつ
た。
「先生、一体どういうつもりなんですか？運
動会で下着姿で走ったり、騎馬戦では丸裸に
までなあって笑顔を浮かべていたっていうじゃ
ないですか！挙句の果てには生徒に体を触ら
れながら・・・」
美佳の母親はそれ以上言うのがさすがに恥ず
かしくて躊躇われたのか、汚らわしいもので
も見るとような目で、美人女教師を見つめた。
「申し訳ありませんでした」
玲奈は頭を下げ、謝った。運動会であのよう

な痴態を晒してしまったのは不可抗力であつたとはいえ、一人の女子生徒の心を傷つけてしまったことは紛れもない事実であり、それについてには担任としてしつかりと謝罪しなければならぬと思ったのだ。

「先生、私に謝られても仕方ないんですよ。謝るなら娘にきちんと謝ってあげてください！」

美佳の母親はそう言うところ、リビングに玲奈を残して、美佳を呼びに行くのだった。

■ 第三章 生徒から土下座を強要される教師

玲奈が沈痛な面持ちで待っていると、しばらくして美佳が母親に連れられてリビングに現れた。美佳は、担任の玲奈の顔を汚いものでも見るかのような目で見つめ、あからさまに嫌悪感を示していた。

「こんにちは、具合はどう？」

玲奈は美佳の顔を窺いながら恐る恐る尋ねた。

「別に・・・」

玲奈の正面にあるソファに座った美佳だったが、担任教師と視線を合わせようとせず、面倒臭そうに言い放った。

「そう・・・さっきお母さんから聞いたんだけど、こないだの運動会で担任として恥ずかしい姿を見せてしまった、そのことでアナタに嫌な思いをさせたなら謝るわ。本当にごめんなさい」

玲奈は申し訳なさそうに美佳の前で頭を下げた。
「恥ずかしい姿ってなに？みんなの前でアソコの毛を晒したり、ブラを脱ぎ捨ててグラウンドを走ったり、素っ裸で騎馬戦をして、相手クラスの子達に体を触られてイってしまっ
たことを言ってるんですかあ？」
美佳が、担任教師が運動会で見せた痴態の数々を赤裸々に語ると、隣に座る母親は表情を強張らせ、頭を下げている玲奈の方を睨んだ。
「ご、ごめんなさい」
自分のクラスの生徒から運動会での忌まわしい出来事について言われた玲奈は、あの時受けた屈辱の数々を思い出し、居たたまれない気持ちになった。
「私、先生のことを少し尊敬していたんです。綺麗だし、頭も良いし、こんな大人になりました。いなくて思っていて・・・でも、運動会の騎馬戦の時に、先生が騎馬の上で丸裸になりながら笑っている姿を見て、裏切られたって思

いました」
美佳が冷たく言い放つと、隣に座る母親が美
佳の肩をそつと抱き寄せた。
「私、もう先生みたいな淫乱教師の授業なん
て受けたくありません！だから学校にも行き
ません！」
美佳は強い口調で、目の前で頭を下げる担任
教師に訴えた。
「外山さんお願い、そんなこと言わないで・
・・」
顔を上げた玲奈は、泣きそうな表情で美佳を
見つめた。
「先生、娘の前でもっとちゃんと謝って誠意
を見せてください！じゃないと娘は先生のこ
と信じませんよ」
美佳の母親は娘の気持ちを代弁するかこのよう
に、玲奈に迫った。
「誠意ですか・・私、どうすれば？」
玲奈は、教師になって初めて経験する出来事
に、自分が生徒親子の前でどんなふうに謝罪

すれば良いのか分からなかった。
「とりあえず土下座してください」
美佳は玲奈を鋭い眼差しで睨みながら言った。
「そんな・・・」
美佳の思いがけない言葉に玲奈は教師として
動揺を隠せなかった。
土下座なんてこれまでの人生で一度もした
ことがなかったし、ましてや教え子の前でそ
んな屈辱的な行為をするなど到底考えられな
かった。
「先生、できないって言うんですか？」
美佳の母親も娘に同調するように、担任であ
る玲奈を責め立てた。
「私は・・・」
教え子の母娘に揃って責め立てられた玲奈は
唇を噛みしめ、どうするべきか悩んだ。
「先生、ただ土下座するだけじゃ、私は誠意
なんて感じませんよ。もっと先生のプライド
もなにかもをここで差し出して下さい」
美佳はさらに担任教師を追い詰めた。

「それはどう意味かしら？」
玲奈が泣きそうな顔で問い掛けると、美佳は
担任教師を睨みつけたまま、冷たい口調で言
い放った。
「ここで素っ裸になって、土下座して謝って
ください」
玲奈は一瞬、自分の耳を疑った。
美佳は、担任の女教師をただ土下座させよ
うとしているのではなく、丸裸にして羞恥の
極みの中で屈辱的な姿を披露させようとして
いるのだ。
「先生、娘のためにお願いします」
美佳の母親も、娘の行き過ぎた言動を咎める
わけでもなく、むしろ積極的に娘に同調して
美しい女教師を甚振るのだった。

■ 海老沢薫 B L O G

・ ・ ・ 海老沢薫の最新作の出版情報や、そのほか各種コンテンツ情報などを配信。

<http://kaoruebisawa.blog.fc2.com/>

■ 海老沢薫 Web 連載小説

『 清楚な美人妻 彩 27 歳 絵画モデル編 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=9281>

『 清純派女優 結衣 24 歳 ー 国民のペットへと堕ちていくヒロイン ー 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=18802>

『 清純派女優 結衣 24 歳 ー 女神の憂鬱 ー 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=26675>

『 女教師 玲奈 25 歳 ー 女性教諭の前代未聞の不幸事 ー 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=17186>

『 美人社長 里帆 26 歳 ー 若き女社長のプライドを砕く屈辱の契約 ー 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=18885>